

八戸商工会議所会頭賞

人と豊かな自然とが共存するために

第三中学校 二年 工藤 羽夏

最近、いろんなところで地球を守る取り組みが行われている。例えば、太陽光パネルを設置して電気をまかなったり、使った水をきれいにしてから川や海に流したりなどだ。しかし、私はこれで地球を守り切れるとは思えない。今、日本では都市化が進んだことで環境について見直され、環境対策も太陽光パネルや風車を設置したりと、なかなかお金のかかってしまう対策が多い。ただでさえ、「借金大国」と呼ばれるくらいお金の少ない日本にとっては大きな打撃になる。そうなると、地球を守れたとしても日本のような借金が多い国では今のような快適な暮らしには戻れないかもしれない。膨大な費用をかけずに簡単にできる環境対策はないだろうか。私が考えてたどりついた答えは緑や花、つまり植物の性質を利用した環境対策だった。植物を利用するというのは、自然を壊さずそのまま活用するということだ。さらに植物は、地球温暖化を引き起こす原因といわれる二酸化炭素を吸収するというメリットを持っている。自然に生える植物を利用すれば費用もあまりかからずに済むため、まさに一石二鳥といえる。そこで私は、環境問題を解決するために、植物を使って身近でできる対策を三つ考えた。

一つ目は、家で何かしら花や野菜などの植物を育てることだ。私の家では、五年ほど前から春にはチューリップなどの花、夏にはキュウリやナスなどを育てている。今まで家の外に植物を置いたり、花や野菜を育ててこなかったこともあつてか、植物を置いてから少し外の空気を吸いたいと思うことが多くなっているように感じた。もちろん、気のせいだと思う人も多いかもしれない。ただ、私は気のせいではなく、本当に外の空気がきれいになったから外に出る回数が多くなったのだと思う。その根拠として、理科の授業が挙げられる。私が六年生のとき、理科の授業で生物の呼吸について学んだ。人は空気中の酸素を吸収し、二酸化炭素を排出するため、ほんのわずかだが、地球温暖化が進む原因の一つにもなっている。一方、植物は二酸化炭素を吸収して酸素を排出するため、未来の地球を守るための重要なものとして挙げられている。これが、私の根拠だ。だが、このこと以外にも外に出たいと思う理由がきつとあるはずだ。今後、資料を使ったりして、もっと具体的な根拠や理由を探っていきたいと思っている。

多くの人が行うことで、地球だけでなく、未来の人々や動物、そして植物を守ることができると思う。だから、一人でも多くの人に取組んでもらうために、まずは自分から積極的に活動していきたいと思う。

三つ目は、たくさんの人に植物のことについて知る機会をつくることだ。私も植物のことについては知らないことだらけだ。植物の知識がないまま環境を守ろうと植物を育てても、あまり意味がないと思う。だから、植物にくわしい先生を招いて講演会を行い、幅広い年代の人に植物の大切さについて学んでもらえる機会を増やせば、植物に興味をもつ人や植物を大事にしよう、守ろうと思う人が増えていくと思う。

このような対策は、口では言えてもいざ実際にやってみるとなると、簡単には進まないだろう。成功させるために重要なのは、まず気付いたこと、今やれることからやってみる行動力。地球を守るために協力したいという気持ちがないければ、成功させることができません。途中であきらめてしまい、地球が無くなってしまいかもしれない。だからこそ、地球を守りたいという気持ちで一人一人がもち、自分には何ができるのかを考えて行動することが重要である。そして、もう一つ大切なことは、未来の地球を想像しながら、その想像した未来から今の自分に何ができるかを考えることだ。どんな未来にしたいか想像を膨らませながら環境対策すること、環境に対しての思いが変わったり、楽しく

環境対策するようになると思う。

私は、積極的に環境問題と向き合いながら、今後の楽しい人生を歩んでいきたい。人と緑豊かな自然とが共存する、それが当たり前になる日まで。